

令和7年 10 月 27 日付【水道産業新聞】
関東支部＜業務を効率化する機能を実演＞
生成 AI テーマに技術講習会

業務を効率化する機能を実演

水コン協 関東支部 生成 AI テーマに技術講習会

全国上下水道コンサルタント協会関東支部はこのほど、オンラインで技術講習会を開いた。「業務効率化に向けた生成 AI の利用方法および留意点」をテーマに、外部講師によるガイダンスに続き、会員企業の講師がコンサルタント業務における生成 AI の具体的な活用事例を実演とともに紹介した。

外部講師の岩田徹氏（㈱インソース）は、主な対話型生成 AI の種類と特徴、国や自治体、民間企業における生成 AI の活用事例と禁止事例、使用に伴うリスクについて説明した。

岩田氏は、対話型生成 AI には、利用者が世界 1 位の ChatGPT

（OpenAI 提供）をはじめ、最も大きなデータを扱うことができる Gemini（Google）、Windows 11 に標準搭載されている Copilot（Microsoft）、自然な日本語処理が得意な Claude（Anthropic）などがあり、それぞれ有料版・無料版によっても機能が異なることから、各組織の目的や使用環境に応じて、生成 AI を使い分けることが重要とした。

自治体で初めて生成 AI を試験導入した横須賀市では、文章作成事務において年間で約 6810 万円の人件費を削減できると試算している。また、全国で初めて生成 A

I の利用方針について条例を制定した神戸市では、活用範囲を文章の要約と翻訳、議事録の草案作成などに限定し、市で独自に情報の外部流出を防止する環境を構築している。

留意点として、グローバル企業などでは、機密性の高い情報や、顧客データの漏洩を防ぐため、社員に ChatGPT の使用を禁止する例もあり、情報セキュリティをはじめ、著作権侵害、誤情報出力、サイバー攻撃への悪用などのリスク対策が重要だとした。

コンサルタント業務における活用事例については、初級編・中級編に分けて紹介した。

初級編では、オリジナル設計の平島昌雄氏が、生成 AI の基本的な活用例として、文章の作成・推敲や、要約、校正、タ

イトル・副題付け、外国語の翻訳、画像の文字認識、アイデア出しなどを実演で紹介。「タイプ（時間対効果）が良く、作業を加速し成果の質を変えられることができる『スマートなアシスタント』として、若手技術者だけでなく、『生成 AI に頼らなくても仕事はできていく』と考える中堅やベテランの技術者にも、確実に役に立つ」と話した。

中級編では、日本水工設計の黄木輝斗氏が、ChatGPT や Gemini を使い、新しいツールの操作方法を習得する、自動でデータの整理を行う VBA コードを生成して Excel の作業を効率化する、報告書や論文、特許に関する文章を要約する、Deep Research で情報源を横断的に検索し出典を提示するなどの機能を実

演。

「さまざまな機能があるが、作業内容によって向き不向きがあるので、どの作業にどの機能が使えるか、一人ひとりが考えることが重要。精度については 8 割程度と考